

# 東京都目黒区教育委員会 完了報告書

## 1. 調査研究概要

	調査研究内容	小学校							成果	課題
		中目黒	烏森	向原	月光原	駒場	原町	中根		
(1)	児童の生活や学びの質を高めるための午前5時間制を取り入れた時間割編成の工夫	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	1日を「学びの午前」「活動の午後」と位置付け、基礎的・基本的な知識・技能の定着は短時間学習を、発展的な学習は長時間学習を活用するなど、児童の実態に応じた授業を年間通じて実施することができた。	学級数が多い学校における2コマ続きの授業を要する専科等の指導を実現させる週時程を工夫する。
(2)	短時間の授業時間を活用した柔軟な時間割編成及び教育内容との効果的な組み合わせを考慮した年間指導計画、指導方法等の開発	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	成果物「午前5時間制で小学校が変わる！」の7から22ページに示した考え方にに基づき、児童の実態や教科等の特性に合わせた年間指導計画、指導方法等を開発することができた。	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行い、教員の資質・能力の向上を図る。
(3)	平成30年度からの外国語活動及び外国語科における先行実施に向け、35単位時間及び70単位	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	午前5時間制は午前中に一単位時間40分間の授業を5コマ実施しているため、年間を通して、授業コマ	特段の課題はなし

	時間の授業 時数の創出								数を週あたり 29コマ以上確 保することが 可能である。 授業時数を創 出するために 週時程を変更 する必要はな く、対応する ことができ た。	
--	----------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(年間実施スケジュール)

月	取組内容
4月	○午前5時間制検討委員会① ○午前5時間制研究発表会用冊子(案)作成
5月	
6月	○午前5時間制検討委員会② ○午前5時間制検討委員会③ ○午前5時間制研究発表会用冊子(案)作成
7月	○午前5時間制実施校対象調査実施(教員)※中根小のみ児童、保護者含む ○午前5時間制検討委員会④ ○午前5時間制研究発表会用冊子(案)作成
8月	○午前5時間制実施校対象調査の分析(教員)※中根小のみ児童、保護者含む
9月	○午前5時間制検討委員会(成果検証)⑤ ○午前5時間制研究発表会用冊子(案)作成 ○午前5時間制研究発表会 ○午前5時間制報告書冊子(案)作成
10月	○午前5時間制検討委員会(成果検証)⑥ ○午前5時間制報告書冊子(案)作成
11月	
12月	○午前5時間制検討委員会報告(目黒区教育委員会)
1月	
2月	
3月	○午前5時間制検討委員会(成果検証)⑦

## 2. 調査研究の内容

### (1) 目黒区立中目黒小学校

#### 2-1 調査研究の内容

- (1) 午前5時間制の実施（1単位時間40分）及び効果的な指導の在り方
- (2) 短時間学習の実施（20分間）
- (3) 長時間学習の実施（60分間、80分間）
- (4) 主体的な学びを実現するための指導方法の研究
- (5) 外部人材を活用した指導の推進

#### 2-2 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

(子どもの視点から)

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的な学習態度の育成につながった。</li> <li>・長時間学習により学習への満足感や達成感が高まった。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学級で取組の成果を生かした指導をする。</li> <li>・指導の一貫性を確保する。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究の視点を明確にして、児童への指導の効果を各種調査から明らかにする。</li> </ul>

(教職員の負担の視点、校務運営の視点から)

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部人材の活用は職員の負担軽減につながった。</li> <li>・ローテーション授業は授業準備の時間を軽減することにつながった。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生み出した放課後のゆとり時間を会議等以外にも活用する。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の負担感の軽減を図るために、会議等、業務の精選を図る。</li> </ul>

(地域との関係の視点から)

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部人材を活用した指導の在り方について、クラブ活動や学校行事等に活用する場面が増えた。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部人材との円滑な連携のための校内組織の見直し（担当者の配置等）、情報共有の持ち方を改善する必要がある。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校務分掌組織の見直しと事業に関する引継ぎシートを作成する。</li> </ul>

#### 2-3 (実践校における年間実施スケジュール)

月	取組内容（研究主題「主体的に学びに向かう児童の育成」）
4月	研究主題について（全体会） 午前5時間制の実施・検証
5月	「資質・能力について」研修会、研究授業（専科部会・図画工作科・60分間）
6月	研究授業（中学年部会・特別活動・60分間）
7月	研究授業（低学年部会・生活科・60分間） 午前5時間制実施校対象調査実施
8月	午前5時間制実施校対象調査の考察・まとめ
9月	午前5時間制研究発表会（27日）
10月	研究授業（高学年部会・体育科・60分間）
11月	研究授業（中学年部会・外国語活動・40分間）
12月	研究授業（高学年部会・体育科・60分間）

1月	研究授業(低学年部会・国語科・40分間)
2月	研究のまとめ 次年度の教育課程の編成
3月	

(2) 目黒区立烏森小学校

2-1 調査研究の内容

- (1) 午前5時間制の実施(1単位時間40分)及び効果的な指導の在り方
- (2) 短時間学習の実施(25分間、国語科・算数科)
- (3) 午後に45分間の授業時間の実施(6校時)
- (4) 短時間学習と6校時を続けた長時間学習(70分間)の実施

2-2 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

(子どもの視点から)

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・40分間での基本的な授業づくりが共通理解できた。</li> <li>・70分間を生かした話し合い活動を通して、自分の考えを表現する力を伸ばすことができた。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短時間学習と午前学習の内容を関連させ、基礎基本の定着を図る。</li> <li>・午前5時間のメリットを生かした年間指導計画を検討する。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の学力状況を踏まえたカリキュラムデザインに取り組む。</li> <li>・午前「定着」午後「活動」を組み合わせた単元や本時の学習計画に取り組む。</li> </ul>

(教職員の負担の視点、校務運営の視点から)

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のコマ数を確保でき、効果的に活用できた。</li> <li>・放課後の時間が確保でき、学年会や教材研究等に費やすことができた。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員連絡会をはじめ、部会などの打ち合わせを縮減する。</li> <li>・学力に関する校内組織をつくり、学習指導に生かす。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動の見通しをもち、PCを活用した情報の共有化を促進させる。</li> <li>・校務分掌の組織編制を行い、より効率的な運営を行う。</li> </ul>

(地域との関係の視点から)

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後の自由時間での交流の機会や多様な活動への参加などができた。</li> <li>・外部評価(第三者委員会)と午前5時間制についての意見交換ができた。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域を生かした学習活動を中学年で多く取り入れる。</li> <li>・放課後の活動に地域人材等の活用を推進する。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者や地域のボランティアの参画を推進していく。</li> <li>・放課後の地域での児童の様子などについて把握する。</li> </ul>

2-3 (実践校における年間実施スケジュール)

月	取組内容(研究主題「自分の思いや考えをもち、生き生きと表現する児童の育成」～魅力ある烏森小授業スタイルの構築を踏まえて～ 午前5時間制)
4月	研究全体会 テーマ「40分授業スタイルの構築」 午前5時間制の実施・検証
5月	研究分科会(国語科、算数科、道徳科)
6月	研究全体会

7月	午前5時間制実施校対象調査実施 研究分科会 研究授業①
8月	研究全体会 午前5時間制実施校対象調査の考察・まとめ
9月	午前5時間制研究発表会(27日) 研究分科会 研究授業②
10月	研究全体会 研究授業③(道徳科)
11月	研究分科会 研究授業④(国語科・70分間、算数科・70分間)
12月	研究分科会 研究授業⑤(国語科・算数科)(道徳科)
1月	研究分科会 研究授業⑥(国語科・算数科) 来年度に向けての改善点の検討
2月	研究分科会全体会 研究授業⑦(道徳科・70分間) 次年度の教育課程の編成
3月	研究全体会(まとめ)

### (3) 目黒区立向原小学校

#### 2-1 調査研究の内容

- (1) 午前5時間制の実施(1単位時間40分)及び効果的な指導の在り方
- (2) 短時間学習の実施(20分間・25分間、国語科・算数科)
- (3) 午後の時間枠の設定(20分間・25分間・45分間)を工夫し、教科や内容に応じた学級担任のカリキュラム・マネジメントの発揮

#### 2-2 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

(子どもの視点から)

成果	・ 午後の時間は教科や内容に応じた、20+45+25・20+25+45・65+25・45+45等の時間設定から、基礎・基本の定着や、調査・まとめ・発表等の学習が十分に行えた。
課題	・ 午後の短時間学習の内容を従前の20分間の教材を基にして、25分間でも行えるよう内容の改善を図る。
改善方策	・ 午後の時間を2コマ連続で行うことから成果を見出すことはできたが、学級数及び授業時数を考慮に入れた上で、連続のコマの取り方を検討する。

(教職員の負担の視点、校務運営の視点から)

成果	・ 40分間で授業を成立させるため、日頃より学年会等を通じて教材研究に取り組む姿が見られた。授業の流れを常に意識した展開を行うことができた。
課題	・ 40分間授業は時数カウントの際は8/9となる。標準時数に達するために、授業回数を増やす必要があり、教科等によっては教材等を自作する。
改善方策	・ 次年度からは「研究開発学校」となる。40分間の指導で45分間の指導と同等の教育効果を上げるためのカリキュラム・マネジメントを模索していく。

(地域との関係の視点から)

成果	・ 学校公開等の保護者・地域アンケートでは、落ち着いて学習に取り組む姿から児童が学習内容を把握できているとの評価を得られた。 ・ 教育課程の編成にあたり、同じ中学校区にある原町小学校と小・小連携を図ることができた。
課題	・ 地域の人材を生かした教育活動を推進し、より一層広報を行う。
改善方策	・ 学校公開日・学校行事等の公開できる場を地域の方に分かりやすく周知し、地域を生かした教育活動を推進する。

### 2-3 (実践校における年間実施スケジュール)

月	取組内容 (研究主題「自分で考え、協力し、試してやり抜く子の育成～プログラミング教育を通して～」)
4月	研究全体会 午前5時間制の実施・検証
5月	研究全体会
6月	研究全体会
7月	午前5時間制実施校対象調査実施
8月	午前5時間制実施校対象調査の考察・まとめ
9月	公開授業 (第6学年・理科・60分間) 午前5時間制研究発表会
10月	公開授業 (第1学年・算数科・45分間)
11月	公開授業 (第3学年・総合的な学習の時間・45分間)
12月	研究全体会
1月	来年度に向けての改善点の検討
2月	次年度の教育課程の編成
3月	研究まとめ

#### (4) 目黒区立月光原小学校

##### 2-1 調査研究の内容

- (1) 午前5時間制の実施 (1単位時間40分) 及び効果的な指導の在り方
- (2) 短時間学習の実施 (20分間、実施教科の弾力化)
- (3) 午後に45分間の授業時間で実施 (6校時)
- (4) 短時間学習と6校時を続けて実施する長時間学習の活性化

##### 2-2 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

(子どもの視点から)

成果	・ 終業時刻が早いことから、放課後の時間が確保でき、教員から個別指導を受けることができたり、たくさん遊ぶことができたりして満足が高まった。
課題	・ 児童の思考力・判断力・表現力等を育成するため、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた40分間授業及び長時間学習の内容の充実を図る。
改善方策	・ 40分間授業や長時間学習の質を高めるための授業研究を実施するとともに、40分間授業と長時間学習の関連を意図的に図る。

(教職員の負担の視点、校務運営の視点から)

成果	・ 終業時刻が早いことから、放課後の時間を学年の打ち合わせや教材研究等の時間として有効に活用できている。
課題	・ 学校における働き方改革の意識を高め、午前5時間制の時程のよさをより一層生かす。
改善方策	・ 6校時の授業時間を40分間にするるとともに、学期末等の繁忙期に短時間学習をカットした時程を取り入れ、放課後の時間をさらに確保する。

(地域との関係の視点から)

成果	・ 比較的時間の長い放課後の時間を利用して、地域の方による「放課後子ども教室事業」等が活発に行われている。
----	---

課題	・地域の方の学校の教育活動に対する共感度は高いことから、午前5時間制のよさをさらに周知する。
改善方策	・地域の会合や学校ホームページ等を活用して、午前5時間制のよさを積極的に周知する。

### 2-3 (実践校における年間実施スケジュール)

月	取組内容 (研究主題「自分の生き方を見つめ、よりよく生きる力を育てる道徳」)
4月	午前5時間制の実施・検証
5月	
6月	研究授業 (道徳科)
7月	午前5時間制実施校対象調査実施 研究授業
8月	午前5時間制実施校対象調査の考察・まとめ
9月	研究授業 (道徳科) 午前5時間制研究発表会
10月	研究授業 (道徳科)
11月	研究授業 (道徳科)
12月	
1月	研究授業 (道徳科) 来年度に向けての改善点の検討
2月	次年度の教育課程の編成
3月	研究まとめ

### (5) 目黒区立駒場小学校

#### 2-1 調査研究の内容

- (1) 午前5時間制の実施及び効果的な指導の在り方  
(1単位時間40分、国語科、算数科における少人数指導の実施)
- (2) 20分間の短時間学習の実施
- (3) 午後に45分間の授業時間で実施 (6校時)
- (4) 短時間学習と6校時を続けて実施する長時間学習の活性化

#### 2-2 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

(子どもの視点から)

成果	・生み出した放課後のゆとり時間を効果的に活用することができた。 ・少人数指導担当教員と学級担任が児童の学習状況の共通理解を図り、授業を行うことができた。
課題	・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、今後も40分授業の展開の工夫・改善、内容の充実を図る必要がある。
改善方策	・学習規律や指導方法等、教員間の組織的な連携を強化し、共通理解を図る。

(教職員の負担の視点、校務運営の視点から)

成果	・生み出した放課後のゆとり時間を活用し、放課後補習、教材研究や少人数指導の打合せの時間を確保することができた。
課題	・一単位時間40分を45分に換算し直して、年間授業時数を適正に進行管理することが課題となっている。
改善方策	・教員間で共通理解を図り、組織的な時数管理の徹底を図る。

(地域との関係の視点から)

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・午前5時間制の趣旨を理解している。</li> <li>・地域人材、近隣大学の協力により、放課後の児童の活動が保障されている。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後導入される区の放課後全児童対策（放課後プラン）と現在の地域、大学生による放課後活動支援との関連を検討する必要がある。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区担当課、委託事業者と地域人材、大学との協議により、現状の成果を踏まえた放課後プランへの移行を検討する。</li> </ul>

### 2-3 (実践校における年間実施スケジュール)

月	取組内容（研究主題「よりよく生きるための道徳性を培う授業改善」）
4月	研究全体会 午前5時間制の実施・検証
5月	研究全体会（講演会）
6月	研究授業（道徳科・40分間）
7月	午前5時間制実施校対象調査実施 校内研究授業（道徳科・40分間）
8月	午前5時間制実施校対象調査の考察・まとめ
9月	研究授業（道徳科・40分間） 午前5時間制研究発表会
10月	研究授業（道徳科・40分間）
11月	研究授業（道徳科・40分間）
12月	研究全体会
1月	研究授業（道徳科・40分間） 来年度に向けての改善点の検討
2月	研究全体会 次年度の教育課程の編成
3月	研究まとめ

### (6) 目黒区立原町小学校

#### 2-1 調査研究の内容

- (1) 午前5時間制の実施（1単位時間40分）及び効果的な指導の在り方
- (2) 25分間の短時間学習の実施（国語科・算数科・その他の教科）
- (3) 午後は45分間の授業時間の実施（6校時）
- (4) 短時間学習と6校時を続けた長時間学習の実施
- (5) 30分間の放課後の時間を活用した個別指導の実施

#### 2-2 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

(子どもの視点から)

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短時間学習は、学校独自の教材の活用や必要に応じて行う様々な学習活動を通して、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図ることにつながった。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長時間学習の効果的な活用を考え、計画的に行う。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長時間学習の活用を算数科に限らず、時数の調整も考えて他教科への拡充を図る。</li> </ul>

(教職員の負担の視点、校務運営の視点から)

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・午前5時間実施校対象調査からも分かるように、放課後の時間に個別指導の学習を計画的に実施することで、児童が落ち着いて学習に取り組むことができるようになったと感じている。</li> </ul>
----	--

課題	・40分間の授業展開に課題が見られる教員の指導力を向上させる。
改善方策	・40分間の授業のスタンダードを作るとともに、校内研究を通して、授業改善に努める。

(地域との関係の視点から)

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・約8割以上の保護者が、生み出した放課後のゆとり時間により児童が学校に楽しいと思って通っていると感じている。</li> <li>・教育課程の編成にあたり、同じ中学校区にある向原小学校と小・小連携を図ることができた。</li> </ul>
課題	・午前5時間制のよさを保護者、地域に周知する。
改善方策	・長時間学習を活用し、ゲストティーチャーを活用したり、体験的活動を授業に取り入れたり工夫することで、午前5時間制のよさを周知する。

### 2-3 (実践校における年間実施スケジュール)

月	取組内容 (研究主題「表現力を育てる」)
4月	午前5時間制の実施・検証
5月	
6月	研究授業 (国語科)
7月	午前5時間制実施校対象調査実施
8月	研究授業 (国語科) 午前5時間制実施校対象調査の考察・まとめ
9月	午前5時間制研究発表会 (27日)
10月	研究授業 (国語科)
11月	研究授業 (国語科)
12月	研究授業 (国語科)
1月	来年度に向けての改善点の検討
2月	次年度の教育課程の編成
3月	研究まとめ

### (7) 目黒区立中根小学校

#### 2-1 調査研究の内容

- (1) 午前5時間制の実施 (1単位時間40分) 及び効果的な指導の在り方
- (2) 短時間学習の実施 (20分間、国語科)
- (3) 午後に45分間の授業実施 (6校時)

#### 2-2 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

(子どもの視点から)

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・午前中に学習することでの集中力が向上した。</li> <li>・放課後の時間のゆとりが増加し、習い事がある日も遊んで帰ることができた。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝読書への切り替えのスピードと朝の支度の段取りの改善を図る。</li> <li>・特別な支援が必要な児童の学校生活習慣を確立する。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の時間意識の向上と生活スタンダードを定着させる。</li> <li>・長時間学習と40分間授業との関連を計画的に図る。</li> </ul>

(教職員の負担の視点、校務運営の視点から)

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時数を確保することができた。</li> <li>・教員の研究、研修時間が確保でき、授業力の向上を図ることができた。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・40分間授業の確実な組み立てと授業内容の充実を図る。</li> <li>・教員の学校運営への参画意識のさらなる意識化を図る。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善への意識のさらなる向上を図る。</li> <li>・放課後の時間の有効活用に関する検証する。</li> </ul>

(地域との関係の視点から)

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後の時間のゆとりが増加した。</li> <li>・「放課後子ども教室事業」が定着した。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は午前5時間制導入の1年目にあたるため、引き続き午前5時間制のよさを保護者、地域に周知し、理解を深める。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報を充実させる。</li> <li>・保護者、地域ボランティア、地域人材を活用し、授業への参画意識を向上させるとともに、午前5時間制のよさを周知する。</li> </ul>

### 2-3 (実践校における年間実施スケジュール)

月	取組内容「問いを生み出し、進んで考える児童の育成～様々な対話を手掛かりにして～」
4月	研究授業(国語科) 午前5時間制の実施・検証
5月	研究授業(算数科、社会科)
6月	研究授業(算数科、理科)
7月	午前5時間制実施校対象調査実施 校内研修会(アクティブ・ラーニング)
8月	研究授業(国語科) 午前5時間制実施校対象調査の考察・まとめ
9月	午前5時間制研究発表会
10月	校内研修会(カリキュラム・マネジメント研修)
11月	
12月	目黒区教育委員会研究開発指定校研究発表会
1月	来年度に向けての改善点の検討
2月	次年度の教育課程の編成
3月	研究まとめ

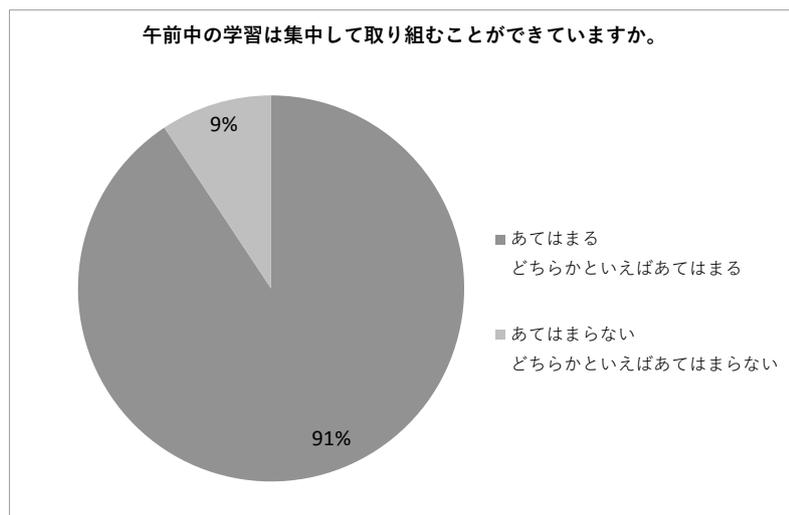
### 3. 実践地域全体としての調査研究の結果明らかとなった成果や課題と改善方策

(○：成果，●：課題)

(子どもの視点から)

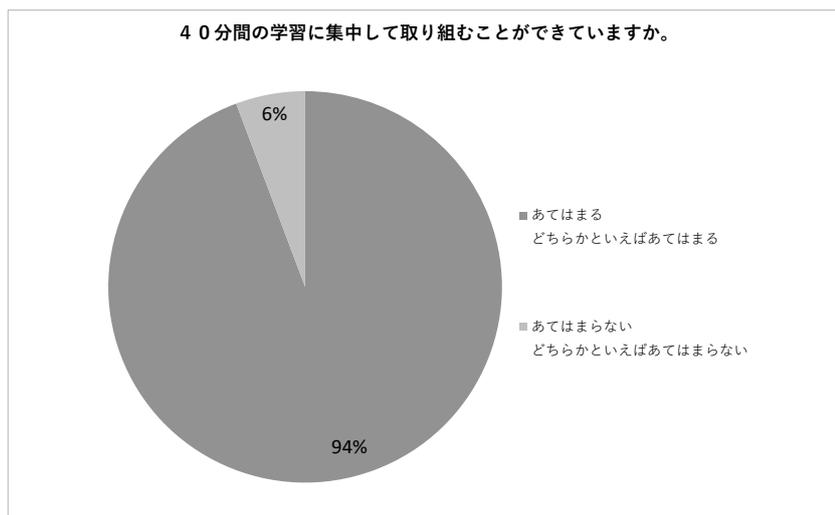
○1日を、「学びの午前」「活動の午後」と位置付けることで、恒常性と弾力性のバランスを図りながら、緩急ある生活のリズムを生み出すことができる。

※目黒区立中根小学校（平成30年度導入）における児童対象調査では、「午前中の学習に集中して取り組むことができますか」という質問に対し、91%の児童が「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」と回答している。



平成30年度児童対象調査より（中根小学校 第4学年から第6学年）

※目黒区立中根小学校（平成30年度導入）における児童対象調査では、「40分間の学習に集中して取り組むことができますか」という質問に対し、94%の児童が「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」と回答している。



平成30年度児童対象調査より（中根小学校 第4学年から第6学年）

○基礎的・基本的な知識・技能の定着は短時間学習の時間を、発展的な学習は長時間学習を活用するなど、児童の実態や学習内容に応じた授業を年間を通して実施することができる。

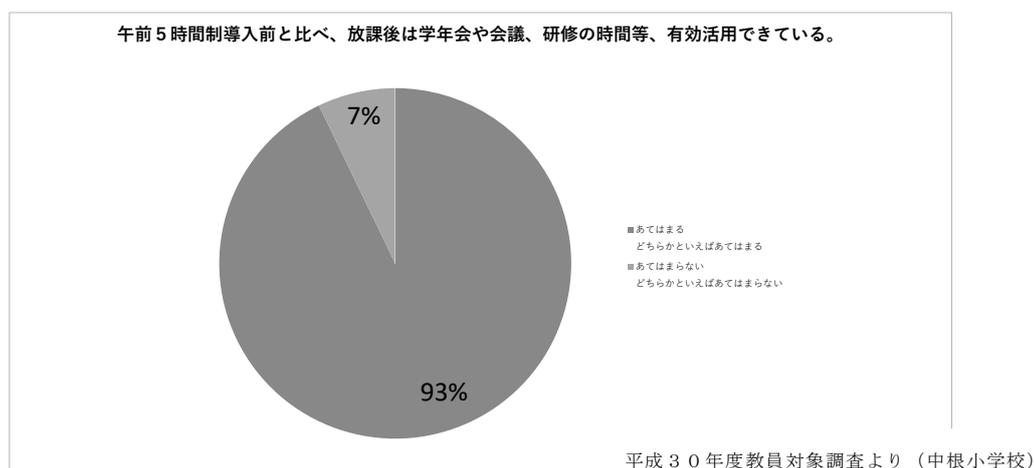
- 午前4時間制の学校より30分間多い放課後のゆとり時間は「自由時間の拡大」「個別指導の充実」「先生とコミュニケーションを図る時間の確保」につながっている。
- 児童に基本的な生活習慣を安定・確立させることができる。児童の心身がよい状態で学習や学校生活に臨むことができることにつながり、結果として学力の支えや向上になる。
- 一単位時間40分における授業において、児童が「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた学習ができるように、全教員の授業力を向上させる。

【改善策】

- ・一人で授業づくりをするのではなく、少人数学習や教科担任制等を取り入れ、チームで授業づくりができる組織にしていく。

(教職員の負担の視点、校務運営の視点から)

- 午前5時間制は、授業時数と授業コマ数を確保することができる。午後の授業をカットする場合、午前中に一単位時間40分間の授業を5コマ実施している上、午後の短時間学習及び6校時の授業をカットしたり、状況によって、短時間学習は実施し、6校時のみをカット、もしくは、短時間学習をカットし、6校時を行ったりするなど、状況に応じて対応することが可能である。
- 教員と児童による授業規律が確立できるよう授業は「チャイム」で始まり、「チャイム」で終わることを意識することができた。
- 午前4時間制の学校より30分間多い放課後のゆとり時間は、「教材開発・校内研究・学年会の時間の確保」につながり、働き方改革の視点からも成果が見られる。  
 ※目黒区立中根小学校（平成30年度導入）における教員対象調査では、「午前5時間制導入前と比べ、放課後は学年会や会議、研修の時間等、有効活用できている。」という質問に対し、93%の教員が「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」と回答している。



- 学級数が多い学校における図画工作科や家庭科等の2コマ続きの授業を要する専科等の指導を実現させる週時程を工夫する。

【改善策】

- ・ 午後に長時間学習を設定することで、2コマ続きの授業を要する専科等の指導を可能とする。

(例1) 2コマ続きの授業を12コマ確保する場合

	時間	月	火	水	木	金
登校時間	8:10	登 校				
	8:15~8:20	朝の支度・移動				
朝会・集会	8:20~8:30	児童朝会	読書	読み聞かせ	児童集会	読書
朝の会	8:30~8:35	学級指導				
1校時	8:35~9:15	1	2	3	4	5
休み	9:15~9:20					
2校時	9:20~10:00	6	7	8	9	10
休み	10:00~10:05	1	2	3	4	5
3校時	10:05~10:45	11	12	13	14	15
休み	10:45~11:05	中休み				
4校時	11:05~11:45	16	17	18	19	20
休み	11:45~11:50	6	7	8	9	10
5校時	11:50~12:30	21	22	23	24	25
給食	12:30~13:10	給 食				
歯磨き	13:10~13:15	はみがきタイム				
昼休み	13:15~13:35	昼休み		学級指導 13:15~ 13:30	昼休み	
清掃	13:35~13:55	清 掃	26		27	清 掃
学習タイム	13:55~14:20	30	11		12	30
休み	14:20~14:25					
6校時	14:25~15:10	31	28		32	29
帰りの会	15:10~15:25	学級指導			学級指導	

- ・ 5校時と6校時の間に、給食時間、清掃、昼休み、学習タイムを挟む形で、2コマ続けて授業を行う。

	時間	月	火	水	木	金
登校時間	8:10	登 校				
	8:15~8:20	朝の支度・移動				
朝会・集会	8:20~8:30	児童朝会	読書	読み聞かせ	児童集会	読書
朝の会	8:30~8:35	学級指導				
1校時	8:35~9:15	1	2	3	4	5
休み	9:15~9:20	1	2	3	4	5
2校時	9:20~10:00	6	7	8	9	10
休み	10:00~10:05					
3校時	10:05~10:45	11	12	13	14	15
休み	10:45~11:05	6	7	8	9	10
4校時	11:05~11:45	16	17	18	19	20
休み	11:45~11:50					
5校時	11:50~12:30	21	22	23	24	25
給食	12:30~13:10	給 食				
歯磨き	13:10~13:15	はみがきタイム				
昼休み	13:15~13:35	11	12	学級指導 13:15~ 13:30	13	14
清掃	13:35~13:55	清掃	26		27	清掃
学習タイム	13:55~14:20	30				30
休み	14:20~14:25					
6校時	14:25~15:10	31	28		32	29
帰りの会	15:10~15:25	学級指導		学級指導		

●午前5時間制の導入から年月が経った場合においても、教職員の異動等により午前5時間制が形骸化せず、午前5時間制の有用性を十分活かす。

【改善策】

- ・午前5時間制をより効果的に実施していくために、各学校が組織的に教職員一人ひとりの40分間のタイムマネジメント能力を向上させる方策を合わせて行っていく。

(地域との関係の視点から)

○午前5時間制の魅力等をまとめた冊子の保護者への配布や説明を通して、保護者に午前5時間制のよさを周知したことにより、午前5時間制の理解を一層深めることができた。

○「活動の午後」に体験的な活動を位置付けることにより、地域人材等を活用した教育活動を推進することができた。

●より一層地域社会とつながる学校にするために、地域人材を生かした教育課程の編成をする。

**【改善策】**

- ・生み出した放課後のゆとり時間等において、地域人材の活用を促していく。

(設置者(教育委員会など)の視点から)

○平成29年3月に告示された新学習指導要領では、小学校中学年における外国語活動と高学年における外国語科の導入により授業時数が増加し、それに伴い、授業時数の確保が大きな課題となっているが、午前5時間制は、午前中に一単位時間40分間の授業を5コマ実施しているため、年間を通して授業コマ数を週あたり29コマ以上確保することが可能であり、週時程を変更することなく、新学習指導要領に対応することができる。

●教育課程の編成は校長に権限があることから本区では、午前5時間制の導入を強制していない。午前5時間制の導入に踏み切れない校長の中には、校長自身が午前5時間制を経験していないため、教員や地域への理解を得られるほどの説明ができないといった不安や45分授業から40分授業に変わることへの抵抗がある。午前5時間制導入校の拡大を図る。

**【改善策】**

- ・午前5時間制実施校における公開授業を実施し、午前5時間制の魅力等を発信する。